

AMCoR

Asahikawa Medical University Repository <http://amcor.asahikawa-med.ac.jp/>

看護研究集録(2018.7) 平成29年度:63.

当院手術部における針刺し・切創予防の現状

山近 真実, 黒澤 温, 平田 哲

当院手術部における針刺し・切創予防の現状

旭川医科大学病院 手術部
山近真実、黒澤 温、平田 哲

【はじめに】手術室看護師にとって、血液感染につながる針刺し・切創事故からの感染予防は重要である。以前、当手術部は看護師による針刺し・切創事故が多く発生したため、現状分析と改善策を実施した。その結果、看護師独自で引き起こされる事故の減少は認められたが、手術野における医師と器械出し看護師の器械の受け渡しに関する事故はなくなるという現状を報告する。

【方法】手術室看護師を対象に、器械出し看護教育、意識改革、安全器材の導入などの改善策を行った。

【結果】改善策を実施した結果、看護師独自で

発生していた事故は減少した。しかし医師と看護師による器械の受け渡しによる事故が継続して発生した。

【考察】看護師自身の針刺し・切創事故が減少したことから改善策の効果は認められた。しかし医師と看護師による器械の受け渡しに関する事故が、継続的に発生しており、ニュートラルゾーンの設置が必要である。手術部における針刺し・切創事故は看護師のみで防止することは不可能である。そのため、手術部における針刺し・切創事故ゼロを目指すには、医師にも改善策を働きかけ、協力を得ることが大切であると考える。